

## 大宰府アカデミー・令和編 第8講 令和5年11月15日(水)質問及び回答(Q&A)

### 「筑紫万葉の世界」

講師・回答：月野 文子先生(福岡女子大学名誉教授)

この度は大宰府アカデミー・令和編を受講いただき誠にありがとうございます。  
皆様からいただきましたご質問につきまして回答いたします。  
なお、ご質問につきましては、抜粋して掲載しておりますことをご了承ください。

Q/ 今回の講義では、筑紫万葉の見方が変わりました。旅人・憶良を中心とする「筑紫万葉の世界」が、実は大陸・半島と密接につながっていたということがよく理解できました。

そこで、官人たちが参考とした文献(作品)にはどのようなものがあったのでしょうか。律令成立以前からすでに漢詩文の素養が求められる状況であったとすると、かなりの写本が日本国内にあったと考えてよいのでしょうか。

### A/ 回答

奈良時代に如何なる書物が入ってきていたのか全体像はつかめません。我国へ伝来した漢籍については『日本国見在書目録』(わが国最古の漢籍目録、寛平3年(891)頃までに成立)が参考になりますが、目録記載の漢籍が何時どのような経路を辿って伝わったのかは定かではありません。漢籍の招来時期を考える際に、遣唐使船が目安とされることが多いようですが、別ルートで帰国する留学生・留学僧や遣新羅使船、朝鮮半島から帰化した人々がもたらした漢籍も少なくなかったと思われます。

この時代、とくに注意しておきたいのは『芸文類聚』(中国で編纂された類書(一種の百科事典)、624年成立)の利用です。本書は、項目として掲げる事物について、古辞書や経書などの記述を引用し、その後その事物に関する詩文を載せているため、故事や文学表現を効率よく学ぶことが出来ました。

こうした漢籍の伝来については、①上代の作品内部(思想・語句など)から影響を及ぼした原典を探る、②文献の記載を参考に推測を重ねる、という地味な作業から、舶載されていたであろう漢籍を推定していくのですが、「○○に曰く」などとあっても、前述の『芸文類聚』からの孫引きである可能性も否定しきれません。

講座最後の「今日のポイント」で取り上げた紀末茂の場合は、誰がみても張正見の「釣竿篇」と酷似しており、また『日本国見在書目録』にも「張正見集」が記載されていますので、この集が紀末茂の活躍した奈良時代初期に伝来していたことは間違いありませんが、その時期や経路は不明と言わざるを得ません。

なお、紀末茂の詩については、月野の論文(『上代文学』119号、2017年)

「紀末茂「臨水観魚」誌が描く朝隠一張正見詩から「渭水終須卜、滄浪徒自吟」を削除した理由」をご参照ください。

**Q/ 講義の中で取り上げられた、漢音と呉音の関係について教えてください。日本での呉音使用は仏教関係用語に限定されますか。**

**A/ 回答**

時代・地域・音韻の変化等が絡む問題ですが、漢音・呉音に限定した大雑把な答であることをご了承ください。

漢音・呉音・唐宋音は日本における漢字音の呼称です。「漢音」は中国北西部（長安周辺地域）の中国語の発音を指し、「呉音」は長江流域（南京周辺地域）の中国語の発音を指します。（全ての漢字音が異なる訳ではありません）

かつて呉と呼ばれていた地域では、南朝（六朝）の文化が長きに亘って栄えており、その時代の都周辺の発音が朝鮮半島を経由して我国へ伝わりました。これが呉音です。朝鮮半島の任那や百済など我国と関係の深かった地域は、黄海を隔てて呉音の地域と向かい合っており、船舶による交易等の交流もありました。懐風藻の序文にも見られるように、古い時代の漢字・漢語、漢籍の多くは半島経由で我国へもたらされていたわけです。（その意味では、日本に入ってきた呉音は既に半島訛であり、それが更に日本訛で変化し、本来の中国語音とは相当の隔たりがあったと思われます）

六世紀末になると、北朝系から出た隋・唐が中国を統一し、その都長安地方の発音が標準とされるようになります。これが漢音です。我国でも外交上の必要に迫られて漢音を奨励することになりますが、国内において浸透していた呉音を払拭することは出来ず、混用（事実上の併用）が続くことになります。朝廷は、大学寮にネイティブの音博士を採用し、帰国した留学生に弟子を取らせるなどして漢音を学ばせようとしたのですが、その効果は限定的だったようです。（新羅でも同様の問題はあったと想像できます）

また、九世紀末に、遣唐使が廃止されると漢音に拘る必要性は低下し、さらに後代には僧侶や交易商人等によって、あらたに呉音系の発音や沿岸部の方言も入って来ることになります。

なお、呉音は仏教関連に限ったことではありません。漢籍の『論語』（ろんご）、『礼記』（らいき）、『詩経』（しきょう）、『文選』（もんぜん）…これらは所謂「呉音」読みです。

**※ ご質問ありがとうございました。**